



Vol. 48

小さな力が大きな力に

ホラン 千秋

女優・タレント

HORAN Chiaki



PROFILE

1988年東京都出身。15歳で芸能界デビュー。ドラマ、情報・報道番組、バラエティー番組などで幅広く活躍。2012年10月から半年間DJを務めたラジオ番組「WORLD POD」(TOKYO FM系列)の中で、世界各国で国際協力に携わる日本人を10回シリーズでインタビューした。

高校生の時に「国際関係」をテーマとした授業があり、日本で暮らしているさまざまな国の方から話を聞く機会がありました。そこで初めて、日本がいかにも平和で、私たちが恵まれた生活を送ってきたかを実感したのです。世界には学校に行きたくてもいけない子どもたちがいる。その一方で、日本では教育のありがたみがいまいち理解されていない…。とても皮肉で、残念に思いました。

そんな授業も影響してか、高校時代のクラスメートの中には、大学卒業後に開発途上国に長期ボランティアに行く人もいました。私もいつか、自分の目で現実を見てみたいという思いを抱いていたものの、すでに今の仕事を始めていたこともあり、なかなか機会がありませんでした。

そんな時、縁あって、「世界とつながる日本」をテーマに、途上国で活躍する日本人にインタビューするラジオ番組を担当させていただくことになりました。ずっと興味があった分野だったので、国際協力に携わる方にお話を伺うことができる

のをとても楽しみにしていました。

番組で取り上げたのは、インドネシア、ガーナ、タンザニア、パレスチナ、ミャンマー、アフガニスタン、ブラジル。私にとっては、ニュースや教科書でしか触れたことのない国や地域ばかり。そのような場所で日本人が現地に根差して活動していることを知り、心を打たれました。

JICA職員や専門家、青年海外協力隊の方々の話を聞いて感じたのは、慣れない土地でさまざまな課題に直面しながらも生き生きとお仕事をされているということ。日本でこれまで培ってきた経験や技術をフルに使って、より良い国をつくるために汗を流しているのは素晴らしいと思います。そして、現地の文化を尊重し、同じものを食べ、同じものを着て仕事に取り組むことで、現地の人たちと同じ目線に立つことができる。そうして初めて支援への一歩が始まるんですね。

このような機会を通じて途上国の現状を垣間見ることができ、特に私が大切だと感じたのはやはり教育です。子どもたちが未来を考える選択肢を増やす場が

学校。私がそうであったように、学校での経験、学びは全て、その後の人生の根幹となっていきます。そのお手伝いを日本が草の根レベルからしているのは、とても誇らしく、長く続けるべき支援だと思いました。

昔と比べると、日本人が途上国や国際協力に触れることができる機会は増えています。一人で世界を変えることは難しいけれど、あなた自身が出会った誰か1人の人生を変えることはできると思うのです。そこから2人、3人と周りに影響が広がっていき、いずれは大きな力となるかもしれません。私もいつか自分の目で途上国の現実を見て感じたことを、日本で暮らす人たちに知ってもらえるような仕事ができればと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「[なんとかしなきゃ](#)」で

